

1 施設概要

施設名称	旧松尾鉱山鉱害防止施設 庁舎			策定年月	R3.3	最終更新	R7.12
所在地	岩手県八幡平市松尾寄木第1地割字沼利1番先			施設類型	庁舎等	財産区分	行政財産
所管課	環境生活部環境保全課			運営形態	委託	防災施設等指定	非該当
都市計画区域	都市計画区域外			防火地域	指定なし	用途地域	指定なし
敷地面積	1,664.00 ㎡			建築面積	263.69 ㎡	延床面積	263.69 ㎡
竣工年度 (建築年月)	1979年10月			経過年数 (R7.4.1現在)	45 年	施設内棟数	1 棟
設置根拠	無						
設置目的	新中和処理施設の維持管理業務を円滑に行うため。						
施設の概況	当施設は、旧松尾鉱山新中和処理施設の維持管理を受託する独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構の管理事務所となっている。						
類似施設	公共			民間			
未利用設備	無			大規模改修	無		
使用許可等の有無	無						
主要棟	名称	旧松尾鉱山鉱害防止施設 庁舎			現況写真		
	構造	W造	種目	事務所建			
	階数	地上 1階	地下				
	建築面積	263.69 ㎡	延床面積	263.69 ㎡			
	建築年月日	1979年10月	法定耐用年数	24 年			
	耐震診断	未	耐震改修	未			
	その他特記事項						

2 利用状況						
R5 利用 状況	開館日	平日(年末年始、休日を除く)		開館時間	8:30～17:15	
	職員数	8 人		(職員数のうち団体等職員数)	0 人	
	職員数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		9人	9人	9人	8人	8人
	施設利用対象者 マクロデータ	開設当時[A] (S44年10月時点)		現 在[B] (R7年4月時点)		増減率 (マクロデータ)
						▲ 7.0%

長寿命化対策の内容

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	1,230,017	100.0%	1,137,718	100.0%	1,230,033	100.0%
	人件費		0.0%		0.0%		0.0%
	物件費等	1,204,943	98.0%	1,112,642	97.8%	1,204,882	98.0%
	維持修繕費	23	0.0%	26	0.0%	101	0.0%
	減価償却費	25,051	2.0%	25,051	2.2%	25,051	2.0%
	支払利息		0.0%		0.0%		0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	支出合計	1,230,017	100.0%	1,137,718	100.0%	1,230,033	100.0%
経常収益(直接的収入)	経常収益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	使用料・手数料		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	臨時利益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	資産売却益		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	補助金等(間接的収入)	922,512	100.0%	853,288	100.0%	922,524	100.0%
	国庫補助金	922,512	100.0%	853,288	100.0%	922,524	100.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	収入合計	922,512	100.0%	853,288	100.0%	922,524	100.0%
年間コスト	▲ 307,505		▲ 284,430		▲ 307,509		

年間利用者数	8 人	8 人	8 人
延床面積当たりコスト	1,166,161 円/m ²	1,078,654 円/m ²	1,166,176 円/m ²
利用者1人当たりコスト	38,438,125 円/人	35,553,775 円/人	38,438,613 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	257 円/人	241 円/人	264 円/人
有形固定資産減価償却率	80.8 %	72.8 %	82.0 %

(参考)岩手県の人口 (単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	木造 長尺カラー 鉄板瓦棒葺 平屋建		照明設備		給排水設備	
劣化度調査	外壁等の老朽化が著しく進行しており、総合的な改修が必要。		補修等により概ね健全。		補修等により概ね健全。	
定期点検	外壁の腐食					
	外部建具の劣化					
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】						
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債						0百万円
一般財源						0百万円
その他						0百万円
計	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果		評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	現状維持	263.69	高
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(長寿命化)	24	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	長寿命化改修
	松尾管理事務所は、築46年経過しているため、計画的に事務所の更新を行っていく必要がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	計画的な大規模改修等により長寿命化を図り、現施設での処理事業を継続的に行う。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
概算費用(見込)	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円
国庫						0 百万円
県債						0 百万円
一般財源						0 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性があるもの。

1 施設概要

施設名称	旧松尾鉱山鉱害防止施設 新中和処理施設		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12
所在地	岩手県八幡平市松尾寄木第1地割字沼利1番先		施設類型	庁舎等	財産区分	行政財産
所管課	環境生活部環境保全課		運営形態	委託	防災施設等指定	非該当
都市計画区域	都市計画区域外		防火地域	指定なし	用途地域	指定なし
敷地面積	45,216.00 ㎡		建築面積	6,136.36 ㎡	延床面積	7,339.13 ㎡
竣工年度 (建築年月)	1980年6月		経過年数 (R7.4.1現在)	44 年	施設内棟数	1 棟
設置根拠	無					
設置目的	旧松尾鉱山から流れ出る坑水が強酸性であり、また、鉄や有害な成分が多く含まれているので、安全な水に処理するため。					
施設の概況	当施設は、旧松尾鉱山から発生する坑廃水を中和処理するため、五省庁合意に基づく国の補助事業により、昭和57年から維持管理を行っている。 ・施設の維持管理は、県が業務主体となり、JOGMEC(独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構)への委託により実施。 ・国内最大の坑廃水中和処理施設であり、24時間365日稼働。					
未利用設備	無		大規模改修	無		
使用許可等の有無	無					
主要棟	名称	旧松尾鉱山鉱害防止施設 新中和処理施設			現況写真	
	構造	S造	種目	事務所建		
	階数	地上 1階	地下	0階		
	建築面積	5,439.67 ㎡	延床面積	5,883.31 ㎡		
	建築年月日	1980年6月	法定耐用年数	38 年		
	耐震診断	済	耐震改修	未		
	その他特記事項					

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日	365日			開館時間	終日	
	職員数	16 人			(職員数のうち団体等職員数)	0 人	
	職員数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (R5/過去5年平均)
		16人	16人	16人	16人	16人	0.0%
	施設利用対象者 マクロデータ	開設当時【A】		現 在【B】		増減率 (マクロデータ)	#DIV/0!

3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	1,416,891	100.0%	1,324,592	100.0%	1,206,749	100.0%
	人件費		0.0%		0.0%		0.0%
	物件費等	1,204,943	85.0%	1,112,642	84.0%	1,204,882	99.8%
	維持修繕費	23	0.0%	26	0.0%	101	0.0%
	減価償却費	211,924	15.0%	211,924	16.0%	1,766	0.1%
	支払利息		0.0%		0.0%		0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	支出合計	1,416,891	100.0%	1,324,592	100.0%	1,206,749	100.0%
経常収益	経常収益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	使用料・手数料		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	臨時利益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	資産売却益		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	補助金等(間接的収入)	1,062,668	100.0%	993,444	100.0%	905,061	100.0%
	国庫補助金	1,062,668	100.0%	993,444	100.0%	905,061	100.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	収入合計	1,062,668	100.0%	993,444	100.0%	905,061	100.0%
年間コスト		▲ 354,223		▲ 331,148		▲ 301,688	

年間利用者数	16 人	16 人	16 人
延床面積当たりコスト	48,265 円/㎡	45,121 円/㎡	41,107 円/㎡
利用者1人当たりコスト	22,138,924 円/人	20,696,750 円/人	18,855,470 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	296 円/人	281 円/人	259 円/人
有形固定資産減価償却率	80.8 %	72.8 %	82.0 %

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備		
主な建築・設備	原水分配槽上屋		受変電設備		炭酸カルシウム添加設備		
	ブロー室上屋		非常用発電設備		凝集剤添加設備		
	酸化槽上屋		配電設備		送風設備		
	バクテリア回収槽上屋		動力設備		給湯設備		
	中和槽上屋		保温・照明設備				
	地下連絡通路上屋						
劣化度調査	屋根や外壁の老朽化が著しく進行しており、総合的な改修が必要。		経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要。		経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要。		
定期点検	屋根の劣化						
	外壁の劣化						
	外部建具の劣化						
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】	原水受槽連絡通路耐震補強工事(R4)				ブロワ設備更新(機械設備)工事(R3)		
	4系固液分離槽上屋ほか耐震補強工事(R5)				No.2ブロワ設備更新(機械設備)工事(R4)		
	バクテリア回収槽地下連絡通路改修工事(R6)						
直近5年改修・大規模修繕費		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
	国庫	40百万円	115百万円	103百万円	36百万円	36百万円	330百万円
	県債						0百万円
	一般財源	13百万円	39百万円	34百万円	12百万円	12百万円	110百万円
	その他						0百万円
計		53百万円	154百万円	137百万円	48百万円	48百万円	440百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	現状維持	施策上の必要性	高
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(長寿命化)	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	長寿命化改修
	新中和処理施設は、築46年経過しているため、計画的に施設の更新を行っていく必要がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	計画的な大規模改修等により長寿命化を図り、現施設での処理事業を継続的に行う。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
	・旧松尾鉦山新中和処理施設受変電設備更新設計業務委託		旧松尾鉦山新中和処理施設受変電設備更新(製作・据付)工事(3ヵ年)	旧松尾鉦山新中和処理施設受変電設備更新(製作・据付)工事(3ヵ年)	旧松尾鉦山新中和処理施設受変電設備更新(製作・据付)工事(3ヵ年)	
概算費用(見込)	10 百万円	0 百万円	50 百万円	337 百万円	283 百万円	680 百万円
国庫	7 百万円		37 百万円	252 百万円	212 百万円	508 百万円
県債			11 百万円	76 百万円	63 百万円	150 百万円
一般財源	3 百万円		2 百万円	9 百万円	8 百万円	22 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

1 施設概要

施設名称	鳥獣保護センター		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12	
所在地	滝沢市砂込390-29		施設類型	庁舎等	財産区分	行政財産	
所管課	環境生活部自然保護課		運営形態	直営	防災施設等指定	非該当	
都市計画区域	都市計画区域外		防火地域	指定なし	用途地域	指定なし	
敷地面積	41,089.22 m ²		建築面積	569.17 m ²	延床面積	569.17 m ²	
竣工年度 (建築年月)	1965年7月		経過年数 (R7.4.1現在)	59 年	施設内棟数	1棟	
設置根拠	有鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律						
設置目的	県民共有の貴重な財産であり、自然環境を構築する重要な要素である野生鳥獣の保護のために、幼鳥獣野生鳥獣の救護(治療及びリハビリテーションを行い、野生に復帰させるまで)を通じて生物多様性や地域個体群の保全に貢献するとともに、自然保護に関する県民学習や広報の場として設置している。						
施設の概況	幼傷病鳥獣の救護については、鳥獣保護管理法に基づき、県が定める鳥獣保護管理事業計画において、幼傷病野生動物の野生復帰訓練を含む救護の拠点として「鳥獣保護センター」を県が設置して運営することとしている。 鳥獣保護センターの施設は、昭和40年に岩手県キジ養殖場として開設し、昭和46年に幼傷病鳥獣の救護を目的に「岩手県鳥獣保護センター」と改称した。以降、現在に至るまで施設の改修等を行いながら、傷病鳥獣の救護(治療、リハビリ、放野、終生飼養)と見学者受入等を実施している。						
未利用設備	無		大規模改修		無		
使用許可等の有無	無						
主要棟	名称	鳥獣保護センター			現況写真		
	構造	W造	種目	事務所建			
	階数	地上	1階	地下			
	建築面積	159.59 m ²		延床面積			159.59 m ²
	建築年月日	1965年3月		法定耐用年数			24 年
	耐震診断	未		耐震改修			未
	その他特記事項						

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日	通年(12月29日から翌年1月3日を除く)			開館時間	8時30分から17時0分	
	職員数	4 人			(職員数のうち団体等職員数)		
	職員数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (R5/過去5年平均)
		4人	4人	4人	4人	4人	0.0%
	施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	開設当時【A】 (S44年10月時点)	1,411,118人	現 在【B】 (R7年4月時点)	1,163,050人	増減率 (マクロデータ)	▲ 17.6%

3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	26,513	100.0%	27,584	100.0%	29,087	100.0%
	人件費	10,674	40.3%	10,670	38.7%	11,236	38.6%
	物件費等	13,706	51.7%	14,737	53.4%	15,845	54.5%
	維持修繕費	127	0.5%	171	0.6%	0	0.0%
	減価償却費	2,006	7.6%	2,006	7.3%	2,006	6.9%
	支払利息		0.0%		0.0%		0.0%
	臨時損失	0	-	0	-	0	-
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	支出合計	26,513	-	27,584	-	29,087	-
経常収益	経常収益(直接的収入)						
	使用料・手数料	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
	臨時利益(直接的収入)						
	資産売却益	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
	補助金等(間接的収入)						
	国庫補助金	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-
	収入合計	0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 26,513		▲ 27,584		▲ 29,087	

年間利用者数	4 人	4 人	4 人
延床面積当たりコスト	46,582 円/m ²	48,464 円/m ²	51,104 円/m ²
利用者1人当たりコスト	6,628,250 円/人	6,896,000 円/人	7,271,750 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	22 円/人	23 円/人	25 円/人
有形固定資産減価償却率	86.8 %	88.5 %	90.1 %

(参考)岩手県の人口 (単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	金属屋根(ストレート)		従量電灯		局所暖房方式(FFストーブ等)	
	外壁吹付(コンクリート打放・モルタル塗)		テレビ共同受信設備		温風暖房機	
	壁仕上げなし(石こうボード)		蛍光ランプ(省エネ形・一般化形)		灯油	
	天井石こうボード				粉末消化	
劣化度調査						
定期点検					浄化槽の法定点検(毎年一回)	
					浄化槽保守点検(年4回)	
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】	放鳥池えん提の改修		LEDライトの取付け			
			電気自動車充電設備を設置			
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債						0百万円
一般財源						0百万円
その他						0百万円
計	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	改善・見直し(経費効率)	施策上の必要性	高
ソフト×ハード(建物性能)	廃止	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	現状維持
施設の方向性	ア 機能の方向性			
	全国的に家きんにおける高病原性鳥インフルエンザが蔓延するなか、ウイルスの媒介者ともなりうる野生鳥獣の衰弱個体の早期回収や死亡野鳥の検査の実施など拡大防止に向けた鳥獣保護センターの役割は、益々重要となっている。			
	イ 建物の方向性			
	負傷した野生鳥獣は細菌等を保有している可能性が高く、人家から離れた位置に設置する必要があること、幼傷病鳥獣の飼養管理や復帰訓練を実施するには相応の広さが必要であり、現在の施設は両方の要件を満たしており、最適である。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	・建物性能・劣化度など老朽化の状況や利用状況などを総合的に勘案しつつ、今後とも県が保有し維持管理することが適当であることから、計画的に長寿命化を実施する。 ・計画的な維持管理と長寿命化の推進により、施設の維持管理や修繕、更新等に係る中長期的なコストの縮減・財政負担の平準化に取り組む。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
	日常点検に基づく維持修繕	日常点検に基づく維持修繕	日常点検に基づく維持修繕	日常点検に基づく維持修繕	日常点検に基づく維持修繕	
概算費用(見込)	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円
国庫						0 百万円
県債						0 百万円
一般財源						0 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

1 施設概要

施設名称	岩手県立県民生活センター		策定年月	令和3年3月	最終更新	令和7年12月
所在地	盛岡市中央通三丁目10番2号		施設類型	庁舎等	財産区分	行政財産
所管課	環境生活部県民生活センター		運営形態	直営	防災施設等指定	該当
都市計画区域	都市計画区域内		防火地域	準防火地域	用途地域	近隣商業地域
敷地面積	2,663.06 ㎡		建築面積	842.22 ㎡	延床面積	2,065.30 ㎡
竣工年度 (建築年月)	1984年8月		経過年数 (R7.4.1現在)	40 年	施設内棟数	1棟
設置根拠	有 消費者安全法第10条の2第1項第1号(法定必置)、県民生活センター条例					
設置目的	県民生活に関する啓発活動、教育、相談等を行うことにより、県民生活の安定及び向上を図ることを目的とし、消費者安全法に規定する消費生活センターとして設置。					
施設の概況	○ 現状においても設置目的に即した利用がなされているが、現行施設は建築から約40年が経過し、施設設備の老朽化により営繕工事の費用が嵩んできている。 ○ 単独公所として施設設備を維持するためには経費負担が大きいことから、機能に見合った施設規模として整備を行い、維持管理コストを低減する必要がある。 ○ 消費生活に係る情勢の変化に伴い、環境再現室や機械制御室等が遊休化しているほか、消費者団体等の活動内容の変化や設備の老朽化等により、調理室やグループ活動室の利用が低調となっており、施設内設備の廃止又は縮小等の見直しを行う必要がある。					
未利用設備	有	環境再現室、機械制御室等		大規模改修	無	
使用許可等の有無	有	(公社)いわて被害者支援センターが入居				

主要棟	名称	県民生活センター庁舎			現況写真
	構造	RC造	種目	事務所建	
	階数	地上	3階	地下	
	建築面積	800.29 ㎡	延床面積	2,023.37 ㎡	
	建築年月日	1984年8月	法定耐用年数	50 年	
	耐震診断	不要	耐震改修	不要	
	その他特記事項	平成7年度 改修等工事(屋根防水、外壁補修等) 平成22年度 テスト室改修等			



2 利用状況							
R5 利用 状況	開館日	344日		開館時間	8:30~17:15		
	職員数	30名		(職員数のうち団体等職員数)	7名		
	利用者数(延べ)	2,693 人					
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (R5/過去5年平均)
	施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	3,072人	2,807人	3,012人	2,933人	2,810人	▲ 8.0%
		開設当時【A】 (S59年10月時点)	1,427,218人	現 在【B】 (R6年4月時点)	1,150,784人	増減率 (マクロデータ)	▲ 19.4%

3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)						
行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度
			構成比		構成比	構成比
経常費用	経常費用	114,201	100.0%	126,593	100.0%	130,358
	人件費	96,341	84.4%	102,468	80.9%	110,835
	物件費等	10,180	8.9%	9,763	7.7%	9,754
	維持修繕費	1,360	1.2%	8,042	6.4%	3,449
	減価償却費	6,320	5.5%	6,320	5.0%	6,320
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%	0
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%	
	その他		0.0%		0.0%	
	支出合計	114,201	100.0%	126,593	100.0%	130,358
経常収益	経常収益(直接的収入)	309	100.0%	326	100.0%	337
	使用料・手数料	309	100.0%	326	100.0%	337
	その他		0.0%		0.0%	
	臨時利益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0
	資産売却益		0.0%		0.0%	
	その他		0.0%		0.0%	
	補助金等(間接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0
	国庫補助金		0.0%		0.0%	
	その他		0.0%		0.0%	
	収入合計	309	100.0%	326	100.0%	337
年間コスト		▲ 113,892		▲ 126,267		▲ 130,021

年間利用者数	2,933 人	2,810 人	2,693 人
延床面積当たりコスト	55,145 円/㎡	61,137 円/㎡	62,955 円/㎡
利用者1人当たりコスト	38,831 円/人	44,935 円/人	48,281 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	95 円/人	107 円/人	112 円/人
有形固定資産減価償却率	75.0 %	76.9 %	78.8 %

(参考)岩手県の人口 (単位:人)		
R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備		
主な建築・設備	屋根シート防水		受変電キュービクル		温水方式暖房、エアコン		
	屋根塗膜防水		自家発電機		各種ポンプ類		
	モルタル塗外壁		電話交換機設備		各種タンク類		
			エレベーター		温水発生機		
					都市ガス		
劣化度調査	経年劣化による機能低下が進行している。		経年劣化による機能低下が進行している。		経年劣化による機能低下が進行している。		
定期点検	雨漏り等の発生		機器類の老朽化が進んでおり、		機器類の老朽化が進んでおり、		
			交換が必要。		交換が必要。		
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】	テスト室等改修工事(H22)【22】		非常用自家発電設備取替工事(H24)【10】		機械設備改修工事(H22)【5】		
	防水工事(H25)【4】		電話交換機交換工事(H29)【2】		空調設備交換修繕(研修室・大ホール)(R2)【6】		
	施設改修工事(H7)【26】				空調設備交換修繕(事務室等)(R4)【7】		
直近5年改修・大規模修繕費		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
	国庫						0百万円
	県債						0百万円
	一般財源	5.9百万円	1百万円	7.8百万円			14.7百万円
	その他						0百万円
計		5.9百万円	1百万円	7.8百万円	0百万円	0百万円	14.7百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	廃止(抜本的見直し)	施策上の必要性	高
ソフト×ハード(建物性能)	廃止(抜本的見直し)	50	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	複合化	建物の方向性	解体
	県民生活センターは、消費者安全法上、県が求められる事務を行うための施設であり、設置目的の有効性は認められ、県の消費者施策の推進を担う機能を有している。 一方、施設自体は法定必置ではなく、単独公所として維持するために多額の負担が生じていることから、現在、整備を進めている他施設(福祉総合相談センター)との複合化により、施設規模の見直しを図り、経費の低減に取り組む必要がある。 (岩手県福祉・消費生活関連相談拠点施設(仮称)整備基本計画に基づき、岩手県福祉総合相談センターと集約する。) ※施設機能としては複合化となる。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	旧県立盛岡短期大学跡地への移転新築(福祉総合相談センターとの集約化・複合化)					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
	旧県立盛岡短期大学跡地への移転改築に係る実施設計及び工損調査の実施、建築工事の実施	旧県立盛岡短期大学跡地への移転改築に係る建築工事の実施	旧県立盛岡短期大学跡地への移転改築に係る工損調査の実施			現在新施設の設計中であり、最新の予算要求資料(整備費内訳)に基づき計上
概算費用(見込)	47 百万円	386 百万円	1 百万円	0 百万円	0 百万円	434 百万円
国庫						0 百万円
県債	41 百万円	320 百万円				361 百万円
一般財源	6 百万円	66 百万円	1 百万円			73 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性があるもの。

1 施設概要

施設名称	岩手県食肉衛生検査所		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12	
所在地	紫波町犬渕南谷地57-3		施設類型	庁舎等	財産区分	行政財産	
所管課	環境生活部食肉衛生検査所		運営形態	直営	防災施設等指定	非該当	
都市計画区域	都市計画区域内		防火地域	指定なし	用途地域	指定なし	
敷地面積	1,334.71 m ²		建築面積	321.03 m ²	延床面積	638.40 m ²	
竣工年度 (建築年月)	1983年2月		経過年数 (R7.4.1現在)	42 年	施設内棟数	1 棟	
設置根拠	有 地方自治法						
設置目的	昭和55年(1980年)4月「食肉衛生検査所設置条例」によりと畜検査や食鳥処理に関する事務等を処理するため紫波及び水沢食肉衛生検査所設置。						
施設の概況	昭和58年(1983年)2月に新庁舎(地上2階建て)竣工、平成14年4月「岩手県知事部局行政組織規則」の一部改正により、紫波及び水沢食肉衛生検査所が統合し、岩手県食肉衛生検査所となる。平成16年3月にBSE検査室、会議室等を増築。令和2年(2020年)2月文書庫の新設及び庁舎内改修整備(ミーティングルームの設置、輸出食肉用細菌検査室の整備、女性用洗面室及びシャワー室の整備等)。令和7年(2025年)4月で建築から43年を迎える。 併設する株式会社いわちくにおけると畜検査や県内食鳥処理場の検査指導等の業務を担う。						
未利用設備	無		大規模改修	無			
使用許可等の有無	無						
主要棟	名称	岩手県食肉衛生検査所			現況写真		
	構造	RC造	種目	事務所建			
	階数	地上	2階	地下			0階
	建築面積	321.03 m ²	延床面積	638.40 m ²			
	建築年月日	1983年2月	法定耐用年数	50 年			
	耐震診断	不要	耐震改修	不要			
	その他特記事項	H15検査室及び会議室等増改築					

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日	平日(年末年始、一部休日を除く)			開館時間	8:30~17:00	
	職員数	29 人			(職員数のうち団体等職員数)	0 人	
	職員数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (R5/過去5年平均)
		26人	28人	28人	29人	27人	5.1%
	施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	開設当時【A】 (S44年10月時点)	1,411,118人	現 在【B】 (R7年4月時点)	1,163,050人	増減率 (マクロデータ)	▲ 17.6%

3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		構成比		構成比		構成比
経常費用	226,205	100.0%	216,669	100.0%	210,189	100.0%
人件費	205,692	90.9%	196,104	90.5%	188,228	89.6%
物件費等	18,305	8.1%	18,588	8.6%	19,253	9.2%
維持修繕費	503	0.2%	272	0.1%	803	0.4%
減価償却費	1,705	0.8%	1,705	0.8%	1,905	0.9%
支払利息	0	0.0%		0.0%		0.0%
臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
その他		0.0%		0.0%		0.0%
支出合計	226,205	100.0%	216,669	100.0%	210,189	100.0%
経常収益(直接的収入)	171,697	100.0%	169,132	100.0%	166,402	100.0%
使用料・手数料	171,697	100.0%	169,132	100.0%	166,402	100.0%
その他		0.0%		0.0%		0.0%
臨時利益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
資産売却益		0.0%		0.0%		0.0%
その他		0.0%		0.0%		0.0%
補助金等(間接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
国庫補助金		0.0%		0.0%		0.0%
その他		0.0%		0.0%		0.0%
収入合計	171,697	100.0%	169,132	100.0%	166,402	100.0%
年間コスト	▲ 54,508		▲ 47,537		▲ 43,787	

年間利用者数	29 人	27 人	29 人
延床面積当たりコスト	85,382 円/m ²	74,463 円/m ²	68,589 円/m ²
利用者1人当たりコスト	1,879,586 円/人	1,760,630 円/人	1,509,897 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	46 円/人	40 円/人	38 円/人
有形固定資産減価償却率	75.8 %	77.5 %	79.2 %

(参考)岩手県の人口 (単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備		
主な建築・設備	屋根シート防水		受変電キュービクル		オイルポンプ		
	外壁コンクリート打放				ホームタンク		
					パッケージエアコン		
劣化度調査	屋根の腐食、外壁の亀裂が確認されるが、構造躯体は概ね健全。長寿命化対策でさらに長期間使用か		経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要		経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要		
定期点検			自家用電気工作物保安管理点検		消防用設備等保守点検、浄化槽・排水処理槽維持管理点検		
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】	増改築工事(1983)【67】		受変電設備(2023)【1】		空気調和設備工事【2021】【7】		
	屋根改修(塗替)工事(2011)【2】						
	書庫増築等工事(2020)【8】						
直近5年改修・大規模修繕費		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
	国庫						0百万円
	県債						0百万円
	一般財源		7百万円	1百万円			8百万円
	その他						0百万円
計		0百万円	7百万円	1百万円	0百万円	0百万円	8百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	改善・見直し(経費効率)	施策上の必要性	高
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(長寿命化)	50	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	長寿命化改修
	施設サービスの重要性は高く、今後とも必要な修繕・改修を行いながら施設を維持管理していくもの。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	計画的な改修等により長寿命化を図り、現施設でのサービスを維持する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
	屋根改修(塗替)					
概算費用(見込)	3 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円	0 百万円	3 百万円
国庫						0 百万円
県債						0 百万円
一般財源	3 百万円					3 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性があるもの。

1 施設概要

施設名称	岩手県環境保健研究センター		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12
所在地	岩手県盛岡市北飯岡一丁目11番3		施設類型	庁舎等	財産区分	行政財産
所管課	環境保健研究センター		運営形態	直営	防災施設等指定	非該当
都市計画区域	都市計画区域内		防火地域	準防火地域	用途地域	準工業地域
敷地面積	21,743.71 ㎡		建築面積	2,932.74 ㎡	延床面積	6,008.93 ㎡
竣工年度 (建築年月)	2001年3月		経過年数 (R7.4.1現在)	24 年	施設内棟数	2棟
設置根拠	無 (地方衛生研究所設置要綱 令和5年廃止)					
設置目的	本県における保健環境部門の科学的・技術的拠点として、県民の健康及び本県の環境を守るため、試験検査、監視測定等の業務や研究を行う。					
施設の概況	平成13年(2001年)に衛生研究所と公害センターを統合し、岩手県環境保健研究センターが設置され、同時に現在地に移転新築(本館棟(地上3階)、附属棟(地上1階))され、令和8年(2025年)4月で建築から25年を迎える。 これまでに当センターは、本県における保健環境部門の科学的・技術的拠点として、試験検査や研究に取り組んできた。					
未利用設備	有	太陽光発電設備		大規模改修	無	
使用許可等の有無	無					

主要棟	名称	本館棟			現況写真		
	構造	RC造	種目	事務所建			
	階数	地上	3階	地下			0階
	建築面積	2,621.14 ㎡	延床面積	5,697.33 ㎡			
	建築年月日	2001.3.23	法定耐用年数	50 年			
	耐震診断	不要	耐震改修	不要			
	その他特記事項						

2 利用状況									
R5 利用状況	開館日	平日(年末年始を除く)			開館時間	8:30~17:15			
	職員数	48 人			(職員数のうち団体等職員数)	0 人			
	職員数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	増減率 (R5/過去5年平均)		
		47人	47人	49人	49人	48人	0.0%		
	施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	開設当時【A】 (S44年10月時点)	1,408,914人	現在【B】 (R7年4月時点)	1,163,024人	増減率 (マクロデータ)	▲ 17.5%		

3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	583,799	100.0%	545,021	100.0%	564,872	100.0%
	人件費	355,736	0.0%	350,642	0.0%	368,877	0.0%
	物件費等	118,231	51.8%	124,223	63.9%	126,643	64.6%
	維持修繕費	48,913	21.4%	9,237	4.8%	8,433	4.3%
	減価償却費	60,919	26.7%	60,919	31.3%	60,919	31.1%
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	支出合計	583,799	100.0%	545,021	100.0%	564,872	100.0%
経常収益	経常収益(直接的収入)	24,732	100.0%	4,406	100.0%	1,206	21.8%
	使用料・手数料	24,732	4.2%	4,406	0.8%	1,206	0.2%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	臨時利益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	4,338	78.2%
	資産売却益		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%	4,338	78.2%
	補助金等(間接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	国庫補助金		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
	収入合計	24,732	100.0%	4,406	100.0%	5,544	100.0%
年間コスト		▲ 559,067		▲ 540,615		▲ 559,328	

年間利用者数	49 人	48 人	48 人
延床面積当たりコスト	93,039 円/㎡	89,969 円/㎡	93,083 円/㎡
利用者1人当たりコスト	11,409,531 円/人	11,262,813 円/人	11,652,667 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	467 円/人	458 円/人	481 円/人
有形固定資産減価償却率	44.2 %	46.1 %	48.1 %

(参考)岩手県の人口 (単位:人)		
R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

番号:建物名称		本館棟				附属棟							
構 造 / 種 目		RC造		事務所建		RC造		事務所建					
階 数		地上	3 階	地下	0 階	地上	1 階	地下	0 階	地上		地下	
建築面積		2,621.14 ㎡				311.60 ㎡							
延床面積		5,697.33 ㎡				311.60 ㎡							
建築年月		2001年3月		耐用年数	50年	2001年3月		耐用年数	50年			耐用年数	
耐震診断 / 耐震改修		不要		不要		不要		不要					
その他特記事項													
主な建築・設備	建 築	屋根シート防水				亜鉛メッキ鋼板葺							
		外壁コンクリート打放				外壁コンクリート打放							
	電気設備	受変電キュービクル											
		電話交換機設備											
		エレベーター											
	機械設備	冷暖房温水方式				冷暖房温水方式							
空調機				空調機									
劣化度調査	建 築												
	電気設備	経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要。				経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要。							
	機械設備	経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要。				経年劣化による機能低下が進行しており、総合的な改修が必要。							
定期点検	建 築												
	電気設備	電気設備(R6.9.19 高圧受電器要更新) エレベーター(R6.12.26 部品取替必要)				電気設備同左							
	機械設備	空調設備(R6.8～9月 軽度故障あり) 消防設備(R6.9.30 指摘無)				同左							
修繕等 工事履歴	建 築												
	電気設備	中央監視装置更新(2021)【8】				同左							
	機械設備	空調設備更新(2024)【7】											
直近5年の維持修繕・改修費		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		合計	
	国庫											0百万円	
	県債											0百万円	
	一般財源			8百万円								8百万円	
	その他											0百万円	
計		0百万円		8百万円		0百万円		0百万円		0百万円		8百万円	

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	改善・見直し(経費効率)	施策上の必要性	高
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(長寿命化)	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設全体の方針	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	現状維持
	計画的な大規模改修等により長寿命化を図り、現施設での行政サービスを維持する。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	計画的な大規模改修等により長寿命化を図り、現施設での行政サービスを維持する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
高圧受電器更新 その他修繕	その他修繕	その他修繕	その他修繕	その他修繕	その他修繕	
概算費用(見込)	34 百万円	2 百万円	2 百万円	2 百万円	2 百万円	42 百万円
国庫						0 百万円
県債						0 百万円
一般財源	34 百万円	2 百万円	2 百万円	2 百万円	2 百万円	42 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

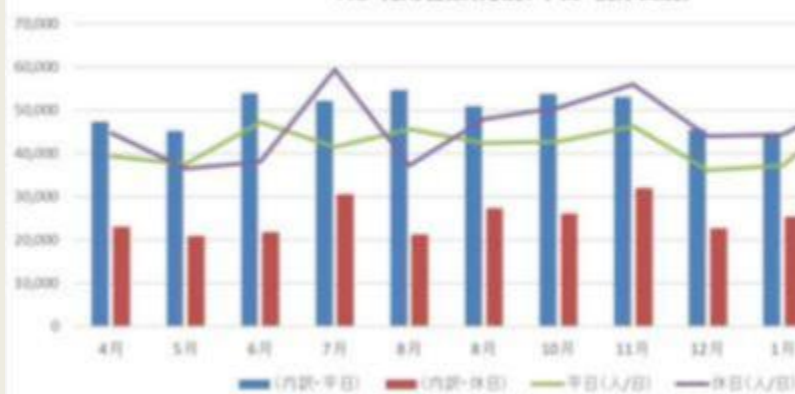
1 施設概要										
施設名称	いわて県民情報交流センター(アイーナ)			策定年月	R3.3		最終更新	R7.12		
所在地	岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号			施設類型	県民利用施設		財産区分	行政財産		
所管課	環境生活部若者女性協働推進室			運営形態	指定管理		防災施設等指定	該当		
都市計画区域	都市計画区域内			防火地域	防火地域		用途地域	商業地域		
敷地面積	9,000㎡			建築面積	7,854.61 ㎡		延床面積	45,874.84 ㎡		
竣工年度 (建築年月)	2005年9月			経過年数 (R7.4.1現在)	19 年		施設内棟数	1 棟		
設置根拠	有	いわて県民情報交流センター条例(平成18年4月施行)					年間目標 (会議室利用率)	70 %		
設置目的	県民の文化活動等に関する情報の交流及び連携の場を提供し、地域文化の創造と発展に役立てるため設置。									
施設の概況	本施設には、公の施設3施設(県民活動交流センター、県立視聴覚障がい者情報センター、県立図書館)のほか、行政機関等4施設(盛岡運転免許センター、岩手県パスポートセンター、岩手県立大学アイーナキャンパス、ファブテラスいわて)、民間施設4店舗(飲食店3、コンビニエンスストア1)が入居している。 開館以来、アイーナの運営・維持管理は指定管理者により行っている。県民活動交流センターを構成するNPO活動交流センターなど7つの施設の運営については、各所管部局がNPO法人等に業務を委託している。 アイーナは、県民サービス、県民の交流・連携、県民活動の拠点として、平成18年4月に開館し、令和6年度までの19年間の入館者数は延べ2,365万人を越え、多くの県民等に利用されている。									
類似施設	公共	有	市町村施設において一部機能類似施設あり。例:やはばーく(矢巾町)			民間	無			
未利用設備	無				大規模改修		有			
使用許可等の有無	有									
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的	県民の文化活動等に関する情報の交流及び連携の場を提供し、地域文化の創造と発展に役立てるため設置。								
	②建物が提供する機能	○ 県民生活・サービス拠点機能 運転免許センターやパスポートセンターを設置し、県民生活のサポートや県の窓口的サービスを提供。 ○ 県民交流・活動拠点機能 NPO活動交流センターや国際交流センター、子育てサポートセンターなど世代や地域を越えた交流や地域づくり活動・ボランティア活動等を支援・促進。 ○ 県民学習拠点機能 図書館や大学のアイーナキャンパスを設置し、多様な生涯学習機会を提供するなど県民の主体的・継続的な学習活動を支援。 ○ 県民情報拠点機能 図書館や県民プラザを設置し、県民生活に関する情報提供や地域の情報、岩手の姿を広く情報発信。 ○ 国際交流拠点機能 国際交流センターを設置し、地域における国際交流の推進や外国人の活動・生活を支援。								
	③設置目的の適合性	令和5年度の年間利用者数を県民利用と仮定した場合、県民(施設利用対象者)の約8割が施設を利用したこととなり、県民ニーズに対応したサービス(機能)の提供が行われている。								
	④施策上の必要性	多様な主体の参画・連携・協働に向けた機運醸成とネットワークづくりの拠点として必要である。								
	⑤建物の必要性	多様化する県民ニーズに対応し、その活動を総合的に支援するとともに、地域や性別、世代を越えた県民相互の交流と連携を図る拠点として必要である。								
	⑥類似施設への代替可能性	なし								
	⑦今後の方向性									
	⑧利用者推移の分析	コロナ禍以前の水準には達していないが、利用者数は回復傾向にある。								
	⑨設置目的の達成に向けたKGI	定員が設定されている会議室の平均利用率 【R4実績】64%【R5実績】67% (R5-R4)3% 【R6～目標】70%								
主要棟	名称	いわて県民情報交流センター(アイーナ)				現況写真				
	構造	S造		種目	事務所建					
	階数	地上	9階	地下	1階					
	建築面積	7,855㎡		延床面積	45,874.84 ㎡					
	建築年月日	2005年9月		法定耐用年数	38 年					
	耐震診断	不要		耐震改修	不要					
	その他特記事項									

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日数	357 日			開館時間		9:00～21:30		年間利用者数		924,562 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		70,415	66,028	75,775	82,790	76,032	78,376	79,826	85,130	68,220	70,199	83,520	88,251
	(内訳・平日)	47,405	45,153	53,941	52,223	54,730	50,992	53,776	53,056	45,528	44,785	55,961	58,344
	(内訳・休日)	23,010	20,875	21,834	30,567	21,302	27,384	26,050	32,074	22,692	25,414	27,559	29,907
	利用者数内訳・団体	26,802 (団体活動室・貸出施設ホール・会議室等)						利用者数内訳・個人		897,760 人			
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)	
		1,345,444人		1,143,507人		695,896人		716,184人		841,202人		▲ 2.5%	
	施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	開設当時【A】 (18年5月時点)		1,374,699人		現 在【B】 (R6年4月時点)		1,150,784人		増減率		▲ 16.3%	

令和5年度
施設利用者推移

R5 利用者数(月別・平日・祝休日別)



3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		構成比		構成比		構成比
経常費用	1,738,664	100.0%	1,721,456	100.0%	1,675,458	100.0%
人件費	241,724	13.9%	246,866	14.3%	235,775	14.1%
物件費等	898,742	51.7%	813,173	47.2%	802,510	47.9%
維持修繕費	206,478	11.9%	269,697	15.7%	245,543	14.7%
減価償却費	391,721	22.5%	391,721	22.8%	391,630	23.4%
支払利息	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
災害復旧事業費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
支出合計	1,738,664	100.0%	1,721,456	100.0%	1,675,458	100.0%
経常収益(直接的収入)	578,184	92.0%	617,748	97.0%	635,141	92.6%
使用料・手数料	93,050	14.8%	122,078	19.2%	133,310	19.4%
その他	485,135	77.2%	495,670	77.9%	501,831	73.2%
臨時利益(直接的収入)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
資産売却益	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
補助金等(間接的収入)	50,389	8.0%	18,859	3.0%	50,485	7.4%
国庫補助金	50,389	8.0%	18,859	3.0%	50,485	7.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
収入合計	628,573	100.0%	636,607	100.0%	685,626	100.0%
年間コスト	▲ 1,110,091		▲ 1,084,850		▲ 989,832	

年間利用者数	716,184 人	841,202 人	924,562 人
延床面積当たりコスト	24,198 円/㎡	23,648 円/㎡	21,577 円/㎡
利用者1人当たりコスト	1,550 円/人	1,290 円/人	1,071 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	928 円/人	919 円/人	851 円/人
有形固定資産減価償却率	32.1 %	34.1 %	36.1 %

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備		
主な建築・設備	屋根:押えコンクリートのまま、露出砂付け		受変電:屋内形キュービクル式		空調機:ユニット形、パッケージ形、ファンコイルユニット		
	外壁:コンクリート打放、石貼、ガラスファード類		発電:屋内形ガスタービン		換気:一種換気		
	床:コンクリート直均し等、ビニル床タイル類		電灯:蛍光灯・省エネ形、誘導灯高輝度形		ポンプ類:空調用、オイル、補給水		
	壁:コンクリート打放、吹付類、塗装類		警報:自火報R形、非常警報設備非常放		給水:公共水道、井戸、雨水利用		
	天井:石こうボード、壁紙、吹付類		構内交換:電話交換機PBX		排水:公共下水道、雑排水ポンプ		
			電気時計設備、拡声設備		給湯:局所式、ガス湯沸器		
劣化度調査	防水層の老朽化が進行している。		経年劣化による機能低下が進行		経年劣化による機能低下が進行		
	コンクリート、床石にひび割れあり。		しており、総合的な改修が必要。		しており、総合的な改修が必要。		
	壁等の塗装が劣化している。躯体構造は良好。		2024年12月実施		2024年12月実施		
定期点検	シーリング剥離、クラック、チョーキング		キュービクル内開閉器等劣化、		PAC経年、給排気ファン劣化、		
	発錆、エフロレッセンス、タイル浮き、		電話交換機経年劣化、自火報経年劣化		冷温水ポンプ劣化、給水ポンプ劣化		
	耐火被覆剥離。2023年9月実施		舞台照明機器更新 2024年実施		自動ドア経年劣化 2024年実施		
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】	R4:外壁ほか改修工事【22百万円】		R4自家発電設備蓄電池交換工事【98百万円】		R5:空調設備入出力モジュール改修工事【14百万円】		
	H30:外部階段塗装工事【1百万円】		R4:構内交換装置PHS基地局等更新工事【16百万円】		R5:自動扉駆動装置等改修工事【59百万円】		
			R4:図書館照明器具LED化工事【28百万円】		R5:ゴンドラ改修工事【38百万円】		
直近5年改修・大規模修繕費		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
	国庫						0百万円
	県債	68百万円	120百万円	74百万円	87百万円	133百万円	482百万円
	一般財源	23百万円	40百万円	24百万円	29百万円	45百万円	161百万円
	その他						0百万円
計		91百万円	160百万円	98百万円	116百万円	178百万円	643百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	現状維持	施策上の必要性	高
ソフト×ハード(建物性能)	現状維持	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	現状維持
	県民ニーズ、県の施策に対応した機能を集約した施設であり、図書館をはじめ公益性が高い施設も多数入所しており、当面、必要な修繕等を行いながら、施設機能を維持することが望ましい。 一方、毎年度、多額の改修経費を要しており、利用者の増加や経常収益の確保などにつながる方策を検討していく必要がある。 なお、本施設の一層の有効活用を図る観点から、他の県有施設から本施設への機能集約や複合化についても検討が必要。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	計画的な大規模改修等により長寿命化を図り、現施設でのサービスを維持する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
・LED化 ・システム更新 ・メーター更新 ・消火器更新	・LED化 ・舞台照明設備更新 ・電話交換機更新 ・ITV(防犯カメラ)設備更新 等	・LED化 ・防災表示盤更新 ・EV7号機制御盤更新 ・ESC制御盤 等	・LED化 ・EV8、9号機制御盤更新 ・融雪設備更新 ・ゴンドラ1号機更新 等	・地下1階受変電更新 ・煙感知器修繕 ・ドアコン更新 ・屋上防水更新 等		
概算費用(見込)	668 百万円	590 百万円	593 百万円	589 百万円	595 百万円	3,035 百万円
国庫						0 百万円
県債	650 百万円	442 百万円	444 百万円	441 百万円	446 百万円	2,423 百万円
一般財源	18 百万円	148 百万円	149 百万円	148 百万円	149 百万円	612 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

1 施設概要

施設名称	見返峠下駐車場休憩施設			策定年月	R3.3	最終更新	R7.12
所在地	秋田県仙北市田沢湖田沢字大深沢国有林16林班へ小班			施設類型	県民利用施設	財産区分	行政財産
所管課	環境生活企画室			運営形態	委託	防災施設等指定	非該当
都市計画区域	都市計画区域外			防火地域	指定なし	用途地域	指定なし
敷地面積	1,777.21 m ²			建築面積	336.23 m ²	延床面積	275.43 m ²
竣工年度 (建築年月)	2000年9月			経過年数 (R7.4.1現在)	24 年	施設内棟数	1 棟
設置根拠	無					年間目標利用者数	41,046人
設置目的	八幡平山頂地区への観光客の誘致拡大のため。						
施設の概況	八幡平山頂地区への登山客をはじめ、近年注目されているドラゴンアイに向かう観光客の休憩施設であること。 ・避難スペースあり(夜間利用可) ・展示施設:自然環境情報コーナー ・地場産品の販売(県観光・プロモーション室所管)						
類似施設	公共	有	八幡平ビジターセンター(秋田県)、県内のビジターセンター		民間	無	
未利用設備	無				大規模改修	無	
使用許可等の有無							
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的	八幡平山頂地区への観光客の誘致拡大を図るための主要拠点として、平成16年に岩手・秋田両県が合同で整備したもの。					
	②建物が提供する機能	・ 八幡平地域の登山客をはじめ、近年注目されているドラゴンアイに向かう観光客の休憩施設として利用されている。 ・ 登山開始前に立ち寄る施設として、トイレが利用できるほか、登山道等施設の利用マナー啓発を行っている。 ・ 登山者等利用者のため、夜間でも利用できる避難スペースを設けている。 ・ 「自然環境情報コーナー」では、十和田八幡平国立公園に生息する希少な高山植物や生態系をはじめとした自然解説を行っている。 ・ 敷地内に展望台があり、十和田八幡平国立公園を一望できる。 ・ 地下部分において、食事コーナーや地場産品を取り扱う売店があり、県内のPR活動も実施されている(地下部分については、県観光・プロモーション室管理)。 ・ 現状においても、設置目的に即した利用がなされているが、今後の施設のあり方について、管理運営手法等を見直すなど、検討を進めていく必要がある。					
	③設置目的の適合性	・ 建築後20年を経過し、老朽化が進んでいることから、必要な修繕等を行いながら、維持管理を継続させていく必要がある。					
	④施策上の必要性	八幡平を訪れる観光客のためのトイレ施設・避難施設として必要な施設である。					
	⑤建物の必要性	八幡平への登山者が、登山開始前に利用するトイレ施設であり、適正な公園利用において、なくてはならない施設である。また、近年注目されているドラゴンアイの利用者の休憩施設である。					
	⑥類似施設への代替可能性	立地はドラゴン・アイを含む八幡平の登山道から最も近い場所にあり、地場産品の購入やトイレの利用の際に、アクセス面で優位性があること、また、動植物等の紹介等の自然保護に関する説明のほか、地場産品の購入等の観光産業も推進していることから、類似施設による代替は困難であること。					
	⑦今後の方向性	③と同様					
	⑧利用者推移の分析	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度以降減少しているが、IV類への移行に伴い、利用者数は徐々に新型コロナウイルス感染症拡大前に回復しつつある。					
	⑨設置目的の達成に向けたKGI	・目標値 41,046人(直近3年間平均利用者数を算定) ・令和5年度において、本目標の達成率は140%となっており、令和6年度以降も情報発信拠点としてより多くの方に利用してもらえるよう情報発信の内容等の検討を進める。					
主要棟	名称	八幡平山頂レストハウス			現況写真		
	構造	W造		種目			事務所建
	階数	地上	1階(自然保護課)	地下			2階(観光・プロモーション室)
	建築面積	336.23 m ²		延床面積			275.43 m ²
	建築年月日	H16.6		法定耐用年数			24 年
	耐震診断	不要		耐震改修			不要
	その他特記事項	-					

2 利用状況													
R5 利用 状況	開館日数	全日(4月～11月上旬)			開館時間		9:00～17:00		年間利用者数		57,778 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		2,500	11,633	10,248	5,501	7,828	6,387	12,422	1,259	0	0	0	0
	(内訳・平日)	1,352	6,137	5,521	3,212	5,115	3,811	7,490	436	0	0	0	0
	(内訳・休日)	1,148	5,496	4,727	2,289	2,713	2,576	4,932	823	0	0	0	0
	利用者数内訳・団体	-					利用者数内訳・個人		57,778 人				
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)		
		61,128人	68,341人		17,619人		17,701人		47,660人		36.0%		
施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	開設当時【A】 (S42年10月時 点)	1,347,659人			現 在【B】 (R7年4月時点)		1,163,050人		増減率 (マクロデータ)		-13.7%		
令和5年度 施設利用者推移		R5 利用者数(月別、平日・祝休日別)											

3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	19,301	100.0%	10,660	100.0%	10,660	100.0%
	人件費	1,062	5.5%	1,062	10.0%	1,062	10.0%
	物件費等	2,458	12.7%	2,387	22.4%	2,387	22.4%
	維持修繕費		0.0%		0.0%		0.0%
	減価償却費	15,781	81.8%	7,211	67.6%	7,211	67.6%
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%		0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
支出合計		19,301	100.0%	10,660	100.0%	10,660	100.0%
経常収益	経常収益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	使用料・手数料	0	-	0	-	-	-
	その他	0	-	0	-	-	-
	臨時利益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	資産売却益	0	-	0	-	-	-
	その他	0	-	0	-	-	-
	補助金等(間接的収入)	0	-	0	-	0	-
	国庫補助金	0	-	0	-	-	-
	その他	0	-	0	-	-	-
収入合計		0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 19,301		▲ 10,660		▲ 10,660	

年間利用者数	17,701	人	47,660	人	57,778	人
延床面積当たりコスト	70,076	円/㎡	38,703	円/㎡	38,703	円/㎡
利用者1人当たりコスト	1,090	円/人	224	円/人	184	円/人
(参考)県民1人当たりコスト	16	円/人	9	円/人	9	円/人
有形固定資産減価償却率	58.8	%	60.1	%	61.4	%

(参考)岩手県の人口 (単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備		
主な建築・設備	屋根仕上:金属		省エネ型蛍光ランプ		局所暖房方式		
	外壁仕上:ALC板		非常用照明:電池内蔵型		燃料:灯油		
	床仕上:ビニル床タイル類		構内放送設備あり		ボイラー給水ポンプ		
	壁仕上:塗装類		誘導支援装置		高置水槽方式		
			テレビ共同受信設備		浄化槽あり		
			エレベータあり		液化石油ガス使用		
劣化度調査	経年劣化による機能設備の老朽化が見られる。		経年劣化による機能設備の老朽化が見られる。		経年劣化による機能設備の老朽化が見られる。		
定期点検	黒谷地湿原の木歩道整備等の際に併せて屋内の点検等を実施している。		黒谷地湿原の木歩道整備等の際に併せて屋内の点検等を実施している。		黒谷地湿原の木歩道整備等の際に併せて屋内の点検等を実施している。		
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】							
直近5年改修・大規模修繕費		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
	国庫						0百万円
	県債						0百万円
	一般財源						0百万円
	その他						0百万円
計		0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	改善・見直し(経費効率)	施策上の必要性	低
ソフト×ハード(建物性能)	現状維持	代替の可能性	低

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	売却・移管
	八幡平山頂地区への誘客拡大に寄与しており、施設機能は現状維持が妥当と考えられる。現時点で建物性能は高いが、八幡平市内に県有の松尾八幡平ビジターセンターなどが設置されており、将来的には、他施設への機能集約や関係市町村への移管などについて検討する余地がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	耐用年数が満了した後に、売却・移管が進められるよう、各種設備を整備する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
		トイレ設備修繕	照明設備	ドア設備改修 外壁改修		
概算費用(見込)	0 百万円	1 百万円	2 百万円	11 百万円	0 百万円	14 百万円
国庫			1 百万円	5 百万円		6 百万円
県債			1 百万円	4 百万円		5 百万円
一般財源		1 百万円		2 百万円		3 百万円
その他						0 百万円

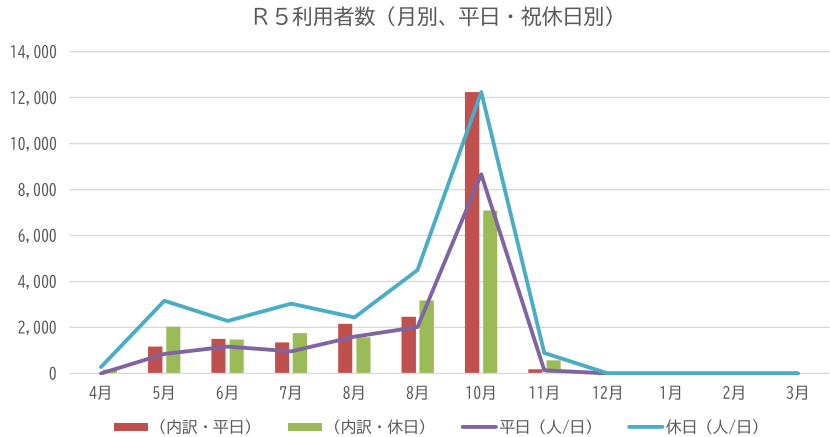
※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

施設名称	須川温泉ビジターセンター			策定年月	R3.3	最終更新	R7.12	
所在地	岩手県一関市蔵美町祭時山国有林			施設類型	県民利用施設	財産区分	行政財産	
所管課	環境生活企画室			運営形態	委託	防災施設等指定	非該当	
都市計画区域	都市計画区域外			防火地域	指定なし	用途地域	指定なし	
敷地面積	908.00 ㎡			建築面積	380.92 ㎡	延床面積	315.26 ㎡	
竣工年度 (建築年月)	2000年10月			経過年数 (R7.4.1現在)	24 年	施設内棟数	1 棟	
設置根拠	有	自然公園法(努力義務)				年間目標利用者数	32,019 人	
設置目的	県内外の多くの人々が、栗駒国定公園の自然のすばらしさをより多く体験できるよう、同公園の自然に関する情報や公園利用に関する情報等を提供する施設として設置したもの。							
施設の概況	栗駒山の経緯や希少な高山植物などの栗駒山周辺地域への理解促進に向けて解説を行っていること。							
類似施設	公共	有	県内のビジターセンター等		民間	無		
未利用設備	無				大規模改修	無		
使用許可等の有無								
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的	・県内外の多くの人々が、栗駒国定公園の自然のすばらしさをより多く体験できるよう、同公園の自然に関する情報や公園利用に関する情報等を提供する施設として設置したもの。 ・自然情報を提供するほか、自然学習会や利用者のミニギャラリー等の場として、また、ボランティアの方々の活動拠点として利用するもの。 ・「須川温泉へのビジターセンター整備のお願いについて」(平成9年9月11日付け商第105-1号)により、登山者の休憩所、登山及び自然解説情報提供の場、自然保護管理員やボランティアの活動拠点として整備するよう要望があったもの。						
	②建物が提供する機能	・栗駒山の登山マップ等をはじめ、登山口(須川温泉)から山頂までのルートを一元的に提示している。 ・栗駒山の模型を配置するとともに、高山植物のパネル等を用いて、来館者の栗駒山の経緯や希少な高山植物などの栗駒山周辺地域への理解促進に向けて解説を行っている。 ・管内の展示物には、山頂からの景色の写真をはじめ、栗駒山登山への魅力発信や、高山植物の盗採や掘り起こし防止に向けて注意喚起を実施している。 ・複数の部屋を設け、自然学習会などの参加を広く呼びかける対外的なイベントをはじめ、多くの登山客が準備や休憩等に利用できる施設としている。						
	③設置目的の適合性	・現状においても設置目的に即した利用がなされているが、登山客をはじめとした利用者数の維持や栗駒山の継続的な情報提供等に向けて、展示内容等について検討を進めていく必要がある。 ・令和6年度において、当センターの法定耐用年数に達し、令和7年度以降、設備の老朽化が見込まれることから、利用者が安全に利用できるよう引き続き修繕を実施していく必要がある。						
	④施策上の必要性	政策推進プランにおける指標(VIII-②)記載の「自然公園の利用者数」に該当すること。						
	⑤建物の必要性	栗駒山登山口において、登山者等の利用者に対し、栗駒山周辺の利用マナーや自然情報を提供しているほか、登山者等の休憩や天候急変時の避難施設としても活用されている唯一の施設である。						
	⑥類似施設への代替可能性	栗駒山に生息する動植物に焦点を当てて情報発信しており、また、設備として複数の部屋を設けていることで、より多くの登山客や複数の会議の開催ができるようになっていることから類似施設による代替は困難であること。						
	⑦今後の方向性	③と同様						
	⑧利用者推移の分析	新型コロナウイルス感染症の拡大による、大きな影響はなく、概ね横ばいに推移していたこと。IV類への以降や秋の紅葉シーズンで注目されたことにより、過去5年間で最多利用者数を記録している。						
	⑨設置目的の達成に向けたKGI	・目標値 32,019人(情報発信拠点として、直近3か年の平均利用者数を算定) 令和5年度において、達成率は122%となっているため、令和6年度以降においても、情報発信拠点としてより多くの方に利用してもらえるよう情報発信を進めていく必要がある。						
主要棟	名称	須川温泉ビジターセンター			現況写真			
	構造	W造	種目	事務所建				
	階数	地上	1階建	地下				なし
	建築面積	380.92 ㎡		延床面積				315.26 ㎡
	建築年月日	H12.10		法定耐用年数				24 年
	耐震診断	不要		耐震改修				不要
	その他特記事項							

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日数	休日(4月)、全日(5月～11月)			開館時間		9:00～16:00		年間利用者数		38,905 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		161	3,189	2,973	3,110	3,729	5,654	19,333	756	0	0	0	0
	(内訳・平日)	0	1,162	1,500	1,356	2,155	2,470	12,249	182	0	0	0	0
	(内訳・休日)	161	2,027	1,473	1,754	1,574	3,184	7,084	574	0	0	0	0
	利用者数内訳・団体	-					利用者数内訳・個人		38,905 人				
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)		
		24,003人	27,651人		32,240人		28,340人		28,812人		37.9%		
	施設利用対象者 マクロデータ ※須川地域観光入込客数	開設当時【A】 (S42年10月時 点)	211,261人		現 在【B】 (R6年4月時点)		195,266人		増減率 (マクロデータ)		▲ 7.6%		

令和5年度
施設利用者推移



3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	2,973	100.0%	3,040	100.0%	3,608	100.0%
	人件費	1,062	35.7%	1,062	34.9%	1,062	29.4%
	物件費等	16	0.5%	17	0.6%	651	18.0%
	維持修繕費	0	0.0%	66	2.2%		0.0%
	減価償却費	1,895	63.7%	1,895	62.3%	1,895	52.5%
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%		0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費		0.0%		0.0%		0.0%
	その他		0.0%		0.0%		0.0%
支出合計		2,973	100.0%	3,040	100.0%	3,608	100.0%
経常収益(直接的収入)	経常収益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	使用料・手数料	0	-	0	-	0	-
	その他	0	-	0	-	0	-
	臨時利益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	資産売却益	0	-	0	-	0	-
	その他	0	-	0	-	0	-
	補助金等(間接的収入)	0	-	0	-	0	-
	国庫補助金	0	-	0	-		-
	その他	0	-	0	-		-
収入合計		0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 2,973		▲ 3,040		▲ 3,608	
年間利用者数		28,340 人		28,812 人		38,905 人	
延床面積当たりコスト		9,430 円/㎡		9,643 円/㎡		11,445 円/㎡	
利用者1人当たりコスト		105 円/人		106 円/人		93 円/人	
(参考)県民1人当たりコスト		2 円/人		3 円/人		3 円/人	
有形固定資産減価償却率		91.5 %		92.7 %		93.9 %	

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	屋根仕上:金属		変圧器:モールド		局所暖房方式	
	外壁仕上:木製		省エネ型蛍光灯		燃料:灯油	
	床仕上:木製フローリング		非常警報設備:非常放送		加圧送水方式	
	壁仕上:木製				井戸あり	
	天井仕上:木製				浄化槽あり	
劣化度調査					液化石油ガス	
	経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。	
	栗駒山登山道やガス観測等の現場確認に合わせて、点検や見回りを実施している。		栗駒山登山道やガス観測等の現場確認に合わせて、点検や見回りを実施している。		栗駒山登山道やガス観測等の現場確認に合わせて、点検や見回りを実施している。	
			電源施設改修(R3)【18百万円】			
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】						
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債		13.5百万円				13.5百万円
一般財源		4.5百万円				4.5百万円
その他						0百万円
計	0百万円	18百万円	0百万円	0百万円	0百万円	18百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	改善・見直し(経費効率)	施策上の必要性	低
ソフト×ハード(建物性能)	現状維持	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	売却・移管
	栗駒国定公園に関する情報提供等の目的達成のために寄与しており、今後も、施設機能の維持は必要と考えられる。一方、有形固定資産減価償却率は約94%と、老朽化が著しく、今後、施設を維持するためには、一定の財政負担が避けられない。裨益が限定的であり、県が施設の保有を継続すべき特段の事情が認められないことから、当面は維持補修等を行いつつ、将来的には関係市町村への移管等について検討する余地がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	耐用年数が満了した後に、売却・移管が進められるよう、各種設備を整備する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
			トイレ設備修繕	展示施設 屋根材改修 設計	展示施設 屋根材改修	
概算費用(見込)	0 百万円	0 百万円	1 百万円	4 百万円	20 百万円	24 百万円
国庫				2 百万円	9 百万円	11 百万円
県債				1 百万円	9 百万円	10 百万円
一般財源			1 百万円	1 百万円	2 百万円	3 百万円
その他						0 百万円

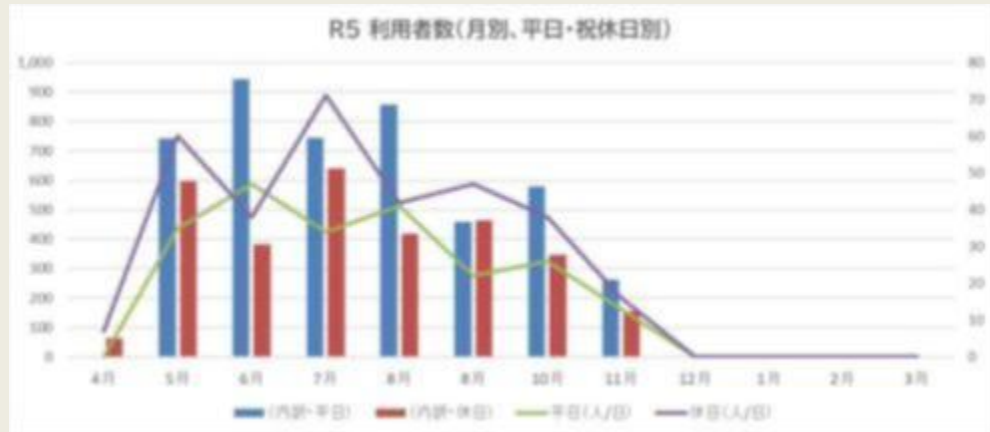
※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

施設名称	折爪岳ふるさと自然公園センター		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12	
所在地	岩手県二戸市福岡字織詰26-2		施設類型	県民利用施設	財産区分	行政財産	
所管課	環境生活企画室		運営形態	委託	防災施設等指定	非該当	
都市計画区域	都市計画区域外		防火地域	指定なし	用途地域	指定なし	
敷地面積	2,082.59㎡(展望台68㎡)		建築面積	307.80㎡(展望台68㎡)	延床面積	307.80 ㎡	
竣工年度 (建築年月)	1997年12月		経過年数 (R7.4.1現在)	27 年	施設内棟数	1 棟	
設置根拠	有 県立自然公園条例(努力義務)				年間目標利用者数	9,595 人	
設置目的	折爪馬仙峡県立自然公園の保護と適正な利用の推進を図るとともに、県北地域の振興に資するため。						
施設の概況	折爪馬仙峡県立自然公園内に生息する動植物の紹介や普及啓発、利用客の休憩施設として利用されていること。 ・ハイビジョン設備:レクチャールーム ・展示施設:写真パネルコーナー、展示コーナー ・休憩スペース ・展望台						
類似施設	公共	有	県内のビジターセンター等		民間	無	
未利用設備	無		大規模改修		無		
使用許可等の有無							
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的		・折爪馬仙峡県立自然公園の保護と適正な利用の推進を図るとともに、県北地域の振興に資するため、自然と人間の調和を会得させるほか、郷土の自然を守り育てていこうとする意識を培う場として整備したものの。 ・環境庁(旧環境省)の補助事業である「ふるさと自然公園国民休養地整備事業」を導入して、県立自然公園の保護と適正な利用の推進を図るため。				
	②建物が提供する機能		・写真パネルコーナーでは、折爪岳周辺に生息する動植物について説明を行っている。 ・「展示コーナー」では、周辺に生息する野鳥の鳴き声やホタルの発光パターンなどを実際に体験することができ、いつでも自然に触れ合うことができる。 ・「レクチャールーム」では、ハイビジョン映像により、折爪岳の成り立ちや自然等について説明している。 ・休憩スペースにおいて、利用客の休憩や食事に利用されている。 ・天気の良い日の山頂展望台からは、岩手山や八幡平、八甲田、八戸市街地など360度のパノラマを見ることができ、夜には八戸港のイカ釣り漁船や八戸市内の夜景を見ることがができる。				
	③設置目的の適合性		・現状においても設置目的に即した利用がなされているが、整備から28年が経過し、今後照明設備やハイビジョン映像設備の修繕等の施設の老朽化が見込まれることから、そのような報告があった際には、利用者の安全な利用に向けて、修繕を検討していく必要がある。 ・令和3年度以降、利用者数が減少傾向にあることから、折爪岳やその周辺地域の自然保護意識の普及啓発に向けて、展示物の更新等について検討を進めていく必要がある。				
	④施策上の必要性		政策推進プランにおける指標(VIII-②)記載の「自然公園の利用者数」に該当すること。				
	⑤建物の必要性		・折爪岳周辺地域の貴重な動植物を紹介する拠点であるほか、利用者が参集・休憩できる施設となっている。 ・展望台についても、県北管内を代表する場所であり、必要性は高い。				
	⑥類似施設への代替可能性		折爪岳やその周辺地域に生息する動植物の発信に焦点を当てており、また、展望台で県北管内を代表する360度パノラマで、景観を楽しむことができることから類似施設による代替は困難である。				
	⑦今後の方向性		③と同様				
	⑧利用者推移の分析		新型コロナウイルス感染症の影響をあまり受けることなく、概ね横ばいに推移している。				
	⑨設置目的の達成に向けたKGI		・目標値 9,595人(直近3か年の平均利用者数を算出) ・令和5年度において、達成率は80%となっているから、情報発信拠点としてより多くの方に利用してもらえよう展示物の更新等を検討していく必要がある。				
主要棟	名称	折爪岳ビジターセンター等			左:展望台 右:ビジターセンター		
	構造	W造		種目			事務所建
	階数	地上	1階建	地下			なし
	建築面積	307.80 ㎡		延床面積			307.80 ㎡
	建築年月日	H9.12		法定耐用年数			24 年
	耐震診断	不要		耐震改修			不要
	その他特記事項	なし					
現況写真							

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日数	休日(4月)、全日(5月～11月)			開館時間		9:00～16:00		年間利用者数		7,652 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		64	1,338	1,324	1,384	1,274	925	924	419	0	0	0	0
		0	742	943	744	857	460	578	263	0	0	0	0
	(内訳・平日)	0	742	943	744	857	460	578	263	0	0	0	0
	(内訳・休日)	64	596	381	640	417	465	346	156	0	0	0	0
	利用者数内訳・団体	-					利用者数内訳・個人		7,652 人				
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)	
		11,145人		10,685人		11,236人		11,236人		9,898人		▲ 29.4%	
	施設利用対象者 マクロデータ ※二戸地域観光入込客数	開設当時【A】 (S42年10月時点)		701,599人		現 在【B】 (R6年4月時点)		418,752人		増減率 (マクロデータ)		▲ 40.3%	

令和5年度
施設利用者推移



3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	3,391	100.0%	3,293	100.0%	2,537	100.0%
	人件費	1,062	31.3%	1,062	32.3%	1,062	41.9%
	物件費等	493	14.5%	493	15.0%	573	22.6%
	維持修繕費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	減価償却費	1,836	54.1%	1,738	52.8%	902	35.6%
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	支出合計	3,391	100.0%	3,293	100.0%	2,537	100.0%
経常収益(直接的収入)	経常収益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	使用料・手数料	0	-	0	-	-	-
	その他	0	-	0	-	-	-
	臨時利益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	資産売却益	0	-	0	-	-	-
	その他	0	-	0	-	-	-
	補助金等(間接的収入)	0	-	0	-	0	-
	国庫補助金	0	-	0	-	-	-
その他	その他	0	-	0	-	-	-
	収入合計	0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 3,391		▲ 3,293		▲ 2,537	

年間利用者数	11,236 人	9,898 人	7,652 人
延床面積当たりコスト	11,017 円/㎡	10,699 円/㎡	8,242 円/㎡
利用者1人当たりコスト	302 円/人	333 円/人	332 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	3 円/人	3 円/人	2 円/人
有形固定資産減価償却率	84.3 %	85.2 %	88.9 %

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	屋根仕上:金属		電気供給契約:従量電灯		トイレ・浄化槽あり	
	外壁仕上:コンクリート打放、木製		電灯設備:非常用照明(電池内蔵型)			
	床仕上:木製フローリング		自動火災報知設備:P型			
	壁仕上:コンクリート打放		電気時計設備			
	天井仕上:石こうボード		誘導支援装置			
劣化度調査	経年劣化による機能の老朽化が進んでいる		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる	
定期点検	市町村職員との打合せ等の際に合わせて点検を行っている。		市町村職員との打合せ等の際に合わせて点検を行っている。		市町村職員との打合せ等の際に合わせて点検を行っている。	
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】					トイレ改修(R5)【2.7百万円】	
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債				2百万円		2百万円
一般財源				0.7百万円		0.7百万円
その他						0百万円
計	0百万円	0百万円	0百万円	2.7百万円	0百万円	2.7百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	改善・見直し(利用状況)	施策上の必要性	低
ソフト×ハード(建物性能)	現状維持	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	売却・移管
	折爪馬仙峡県立自然公園の保護と利用促進などに一定の寄与が認められる施設であり、今後も、施設機能の維持は必要と考えられる。 一方、有形固定資産減価償却率は88.9%に達しているなど、老朽化が進んでおり、今後、施設を維持するためには、一定の財政負担が避けられない。裨益が限定的であり、県が施設の保有を継続すべき特段の事情が認められないことから、当面は維持補修等を行いつつ、将来的には関係市町村への移管等について検討する余地がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	耐用年数が満了した後に、売却・移管が進められるよう、各種設備を整備する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
		浄化槽修繕他		照明設備改修	開閉扉改修 外壁改修	
概算費用(見込)	0 百万円	1 百万円	0 百万円	2 百万円	7 百万円	10 百万円
国庫						0 百万円
県債				1 百万円	5 百万円	6 百万円
一般財源		1 百万円		1 百万円	2 百万円	4 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

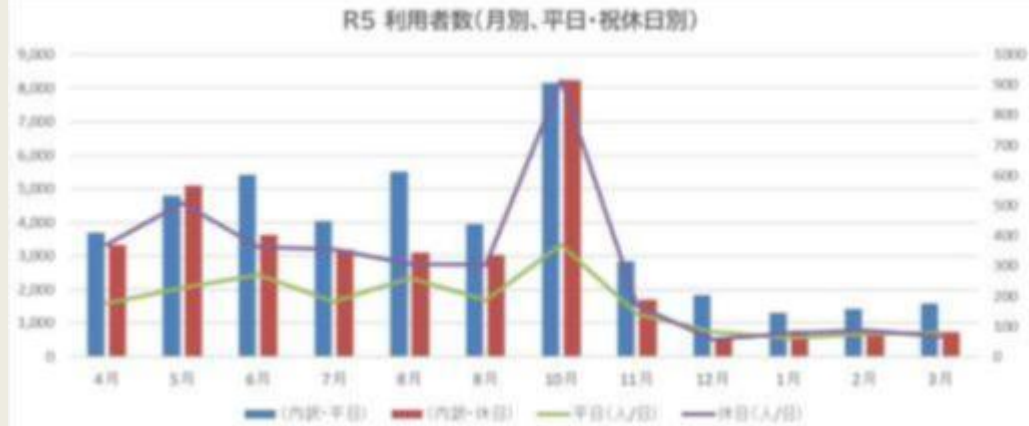
1 施設概要

施設名称		柏台地区利用誘導拠点		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12
所在地		岩手県八幡平市柏台1丁目28番地		施設類型	県民利用施設	財産区分	行政財産
所管課		環境生活企画室		運営形態	委託	防災施設等指定	非該当
都市計画区域		都市計画区域外		防火地域	指定なし	用途地域	指定なし
敷地面積		2,927.34 ㎡		建築面積	591.94 ㎡	延床面積	591.94 ㎡
竣工年度 (建築年月)		2003年3月		経過年数 (R7.4.1現在)	22 年	施設内棟数	1 棟
設置根拠		有 自然公園法(努力義務)、自然公園施行令(努力義務)				年間目標利用者数	81,656 人
設置目的		十和田八幡平国立公園の地形、動物、植物、歴史等に関し、公園利用者が容易に理解できるよう、解説活動又は実物標本、模型、写真、図表等を用いた展示を行うため。					
施設の概況		十和田八幡平国立公園の地形、動物、植物、歴史等に関する照会や普及啓発、利用者の休憩スペースを提供している。 展示施設等:「ハイビジョン映像コーナー」、「展示ホール」、「八幡平付近生息昆虫標本」、「高山植物コーナー」 会議室等:「レクチャールーム」					
類似施設		公共	有	県内のビジターセンター、八幡平ビジターセンター(環境省建設) 等		民間	無
未利用設備		無		大規模改修		無	
使用許可等の有無							
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的		・十和田八幡平国立公園の地形、動物、植物、歴史等に関し、公園利用者が容易に理解できるよう、解説活動又は実物標本、模型、写真、図表等を用いた展示を行うため。 ・環境庁(現環境省)が策定した「八幡平地域緑のダイヤモンド計画」の一事業として、平成13年度から整備を進め、八幡平市松尾さくら公園の中に八幡平・岩手山の情報発信拠点として平成15年に整備したもの。 ・年間5万人程度の来館を想定。				
	②建物が提供する機能		・センター内にある「ハイビジョン映像コーナー」や「展示ホール」では、八幡平地域に生息する動植物や火山等に関する説明を映像で行っている。 ・「八幡平付近生息昆虫標本」や「高山植物コーナー」では、八幡平・岩手山地域に生息する昆虫・高山植物の写真・標本等により、利用者が目で見て、手で触れることができる施設となっている。 ・そのほか、近年十和田八幡平国立公園内で発生している高山植物の盗採の防止に向けて、ポスターなどを用いた注意喚起を行っている。 ・勉強会やイベントに利用可能な「レクチャールーム」で、八幡平アスピーテライン開通式や自然学習会等の対外的なイベントが開催されている。 ・休憩スペースにおいて、利用客の休憩や食事に利用されている。				
	③設置目的の適合性		・現状においても設置目的に即した利用がなされているが、整備から20年が経過し、天井板の老朽化が報告されるなど、今後その他設備の老朽化も見込まれることから、訪問客が安全に利用できるよう、引き続き修繕を実施していく必要がある。 ・十和田八幡平国立公園八幡平地域指定60周年の平成29年度頃以降、ビジターセンター利用者が伸び悩んでいることから、利用者の継続的な確保や利用者への有益な情報提供・自然保護思想の普及啓発に向けて、展示物の更新等について検討を進めていく必要がある。				
	④施策上の必要性		政策推進プランにおける指標(VIII-②)記載の「自然公園の利用者数」に該当すること。				
	⑤建物の必要性		公園利用者に対して、八幡平地域の貴重な動植物等を紹介している数少ない施設であるほか、立地を生かしてイベント等の会場としても利用されている施設である。				
	⑥類似施設への代替可能性		・イベント等の発信内容 八幡平ビジターセンターは秋田県側のものが中心となっており、当センターは主に岩手県側の八幡平地域を発信しているところ。 ・開館時期 八幡平ビジターセンターは11月上旬から4月上旬における冬季期間は休館となっている一方で、当センターは、冬季期間も毎週水曜日を除いて開館しており、来館者に広く情報発信を行っている。 ・設備 当センターには、ハイビジョン映像設備があり、大画面で八幡平地域に生息する動植物や火山に関する説明を楽しむことができる。 上記から、類似施設による代替の可能性は困難であること。				
	⑦今後の方向性		③と同様				
	⑧利用者推移の分析		直近3か年においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により減少傾向にある。				
	⑨設置目的の達成に向けたKGI		・目標値 81,656人(直近3か年の平均利用者数を算定) ・令和5年度において、達成率は96%となっており、引き続き情報発信拠点としてより多くの方に利用してもらえるよう展示物の更新等を検討していく必要がある。				
主要棟	名称	柏台地区利用誘導拠点			現況写真		
	構造	W造		種目			事務所建
	階数	地上	1階	地下			なし
	建築面積	591.94 ㎡		延床面積			591.94 ㎡
	建築年月日	1901年8月		法定耐用年数			24 年
	耐震診断	不要		耐震改修			不要
	その他特記事項	R3・R4:浄化槽修繕					

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日数	全日 (12月～3月の毎週水曜日、年 末年始除く)			開館時間		9:00-17:00		年間利用者数		78,588 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		7,035	9,886	9,026	7,226	8,586	6,991	16,385	4,524	2,356	2,065	2,204	2,304
	(内訳・平日)	3,702	4,792	5,409	4,028	5,502	3,954	8,150	2,839	1,832	1,299	1,420	1,573
	(内訳・休日)	3,333	5,094	3,617	3,198	3,084	3,037	8,235	1,685	524	766	784	731
	利用者数内訳・団体	-					利用者数内訳・個人		78,588 人				
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)	
		111,819人		96,792人		91,644人		77,416人		88,964人		▲ 15.8%	
	施設利用対象者 マクロデータ ※県人口	開設当時【A】 (S42年10月時 点)		1,347,659人		現 在【B】 (R6年4月時点)		1,457,144人		増減率 (マクロデータ)		8.1%	

令和5年度
施設利用者推移



3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	11,880	100.0%	11,996	100.0%	12,333	100.0%
	人件費	1,062	8.9%	1,062	8.9%	1,062	8.6%
	物件費等	2,500	21.0%	2,825	23.5%	2,568	20.8%
	維持修繕費	385	3.2%	176	1.5%	770	6.2%
	減価償却費	7,933	66.8%	7,933	66.1%	7,933	64.3%
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
支出合計		11,880	100.0%	11,996	100.0%	12,333	100.0%
経常収益	経常収益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	使用料・手数料	0	-	-	-	-	-
	その他	0	-	-	-	-	-
	臨時利益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	資産売却益	0	-	-	-	-	-
	その他	0	-	-	-	-	-
	補助金等(間接的収入)	0	-	0	-	0	-
	国庫補助金	0	-	-	-	-	-
	その他	0	-	-	-	-	-
収入合計		0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 11,880		▲ 11,996		▲ 12,333	

年間利用者数	77,416 人	88,964 人	78,588 人
延床面積当たりコスト	20,070 円/㎡	20,266 円/㎡	20,835 円/㎡
利用者1人当たりコスト	153 円/人	135 円/人	157 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	10 円/人	10 円/人	11 円/人
有形固定資産減価償却率	75.0 %	79.0 %	83.1 %

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	屋根仕上:金属		電気供給契約:従量電灯		浄化槽あり	
	外壁仕上:木製		電灯設備:一般形、非常用照明		雑排水ポンプ	
	床仕上:石貼、タイル		情報表示設備			
	壁仕上:木製		映像・音響装置			
	天井仕上:木製					
劣化度調査	経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。	
定期点検	浄化槽やタイル等の点検の際に合わせて、点検を行っている。		浄化槽やタイル等の点検の際に合わせて、点検を行っている。		浄化槽やタイル等の点検の際に合わせて、点検を行っている。	
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】			自動ドア修繕(R2)【0.6百万円】		浄化槽修繕(R2)【1百万円】	
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債						0百万円
一般財源	1.6百万円					1.6百万円
その他						0百万円
計	1.6百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	1.6百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	廃止(抜本的見直し)	施策上の必要性	低
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(複合化等)	代替の可能性	低

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	売却・移管
	十和田八幡平国立公園の情報発信等のために一定の寄与は認められ、施設機能は現状維持が妥当と考えられる。一方、有形固定資産減価償却率が比較的高く、今後、施設を維持するためには、一定の財政負担が避けられない。八幡平市内には県有の八幡平山頂レストハウスなどが設置されており、将来的には、他施設への機能集約や関係市町村への移管等について検討する余地がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	耐用年数が満了した後に、売却・移管が進められるよう、各種設備を整備する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
		映像設備改修 設計業務ほか	映像設備改修工 事ほか		浄化槽修繕ほか	
概算費用(見込)	0 百万円	2 百万円	5 百万円	0 百万円	1 百万円	8 百万円
国庫						0 百万円
県債		1 百万円	3 百万円			4 百万円
一般財源		1 百万円	2 百万円		1 百万円	4 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

1 施設概要										
施設名称	室根山国民休養地ふるさと自然公園センター			策定年月	R3.3		最終更新	R7.12		
所在地	一関市室根町折壁字室根山1-177			施設類型	県民利用施設		財産区分	行政財産		
所管課	環境生活企画室			運営形態	委託		防災施設等指定	非該当		
都市計画区域	都市計画区域外			防火地域	指定なし		用途地域	指定なし		
敷地面積	575.00 m ²			建築面積	307.56 m ²		延床面積	307.56 m ²		
竣工年度 (建築年月)	1996年3月			経過年数 (R7.4.1現在)	29 年		施設内棟数	1 棟		
設置根拠	有	県立自然公園条例(努力義務)					年間目標利用者数	966 人		
設置目的	室根山県立自然公園の保護と適正な利用の推進を図るため、自然と人間の調和を会得させるほか、郷土の自然を守り育てていこうとする意識を培う場として整備したもの。									
施設の概況	室根山県立自然公園内に生息する動植物等の紹介や普及啓発、利用客の休憩施設であること。 ・映像設備:ハイビジョン映像 ・展示施設:動植物の標本(バードウォッチング可) ・休憩施設 ・野営場									
類似施設	公共	有	県内のビジターセンター等			民間	無			
未利用設備	無				大規模改修		無			
使用許可等の有無										
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的	・室根山県立自然公園の保護と適正な利用の推進を図るため、自然と人間の調和を会得させるほか、郷土の自然を守り育てていこうとする意識を培う場として整備したもの。 ・環境庁(旧環境省)の補助事業である「ふるさと自然公園国民休養地整備事業」を導入して、県立自然公園の保護と適正な利用の推進を図るため整備したもの。								
	②建物が提供する機能	・研修室には、ハイビジョン映像設備を配備しており、室根山の成り立ちや室根山周辺地域に生息している動植物の特徴を紹介している。 ・展示コーナーでは、室根山周辺において、春のヤマツツジをはじめ、季節ごとに見られる植物や鳥の標本等を展示している(バードウォッチング可)。 ・近隣には展望台や野営場があるため、それらの施設の利用方法・魅力等を発信している。 ・休憩スペースにおいて、利用客の休憩や食事等に利用されている。 ・そのほか、敷地内にある野営場の物品貸出を行っており、野営場管理棟としての機能も有している。								
	③設置目的の適合性	・現状においても設置目的に即した利用がなされているが、整備から28年が経過し、法定耐用年数を超えているため、今後展示物や映像設備等施設の老朽化が見込まれことから、修繕や更新を検討していく必要がある。 ・他の自然公園センターやビジターセンターに比べて、利用者数が少ないことから、利用者の自然保護思想と適正な利用促進に向けて、展示物の更新等について検討を進めていく必要がある。								
	④施策上の必要性	政策推進プランにおける指標(VIII-②)記載の「自然公園の利用者数」に該当すること。								
	⑤建物の必要性	公園利用者に対し、実物標本等により自然解説を行っているほか、野営場管理棟としての役割を担っている施設である。								
	⑥類似施設への代替可能性	・室根山に生息する動植物に焦点を当てた発信を行っており、また、周辺施設の利用に伴う案内窓口として、室根山の自然保護思想の普及啓発や適正な利用を推進するほか、野営場管理棟としての機能も有していることから、類似施設による代替は困難であること。								
	⑦今後の方向性	③と同様								
	⑧利用者推移の分析	新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者数が減少し、IV類への移行後においても、未だ利用者数は回復していない。下記⑨のとおり、今後は直近3か年の平均利用者数を目標とすることとする。								
	⑨設置目的の達成に向けたKGI	・目標値 966人(直近3か年の平均利用者数を算定) ・令和5年度において、達成率は71%となっているから、令和6年度以降情報発信拠点としてより多くの方に利用してもらえよう展示物の更新等を検討していく必要がある。								
主要棟	名称	室根山ふるさと自然公園センター				現況写真				
	構造	W造		種目	事務所建					
	階数	地上	1階建	地下	なし					
	建築面積	307.56 m ²		延床面積	307.56 m ²					
	建築年月日	H8.3		法定耐用年数	24 年					
	耐震診断	不要		耐震改修	不要					
	その他特記事項	R3:照明設備修繕、R4:トイレ換気扇修繕								

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日数	全日 (12月～3月の毎週水曜日、年 末年始除く)			開館時間		9:00～17:00		年間利用者数		690 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		12	227	85	101	73	88	104	0	0	0	0	0
	(内訳・平日)	0	40	5	15	22	6	21	0	0	0	0	0
	(内訳・休日)	12	187	80	86	51	82	83	0	0	0	0	0
	利用者数内訳・団体	-					利用者数内訳・個人		690 人				
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)	
		-		1,601人		1,226人		1,048人		1,161人		▲ 45.2%	
	施設利用対象者 マクロデータ ※室根地区観光入込客数	開設当時【A】 (S42年10月時 点)		18,981人		現 在【B】 (R6年4月時点)		185,813人		増減率 (マクロデータ)		878.9%	

令和5年度
施設利用者推移



3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用		3,703	100.0%	3,695	100.0%	4,436	100.0%
人件費		1,062	28.7%	1,062	28.7%	1,062	23.9%
物件費等		100	2.7%	100	2.7%	837	18.9%
維持修繕費		26	0.7%	18	0.5%		0.0%
減価償却費		2,515	67.9%	2,515	68.1%	2,537	57.2%
支払利息		0	0.0%	0	0.0%		0.0%
臨時損失		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
災害復旧事業費		0	0.0%	0	0.0%		0.0%
その他		0	0.0%	0	0.0%		0.0%
支出合計		3,703	100.0%	3,695	100.0%	4,436	100.0%
経常収益(直接的収入)		0	-	0	-	0	-
使用料・手数料		0	-	0	-		-
その他		0	-	0	-		-
臨時利益(直接的収入)		0	-	0	-	0	-
資産売却益		0	-	0	-		-
その他		0	-	0	-		-
補助金等(間接的収入)		0	-	0	-	0	-
国庫補助金		0	-	0	-		-
その他		0	-	0	-		-
収入合計		0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 3,703		▲ 3,695		▲ 4,436	

年間利用者数	1,048 人	1,161 人	690 人
延床面積当たりコスト	12,040 円/㎡	12,014 円/㎡	14,423 円/㎡
利用者1人当たりコスト	3,533 円/人	3,183 円/人	6,429 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	3 円/人	3 円/人	4 円/人
有形固定資産減価償却率	85.3 %	86.2 %	87.0 %

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	屋根仕上:金属		電気供給契約:従量電灯		給水設備:水道直結方式	
	床仕上:コンクリート直均し		電灯設備:一般形蛍光ランプ、非常用照明(電池内蔵形)		水源:公共水道	
	壁仕上:石こうボード				浄化槽あり	
					ガス設備:液化石油ガス	
劣化度調査	経年劣化による機能の老朽化が進んでいる		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる	
定期点検	市町村職員との打合せ等の際に合わせて現地で点検を行っている。		市町村職員との打合せ等の際に合わせて現地で点検を行っている。		市町村職員との打合せ等の際に合わせて現地で点検を行っている。	
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】			照明設備修繕(R3)【0.03百万円】			
			照明設備修繕(R4)【0.04百万円】			
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債						0百万円
一般財源		0.03百万円	0.04百万円			0.07百万円
その他						0百万円
計	0百万円	0.03百万円	0.04百万円	0百万円	0百万円	0.07百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	廃止(抜本的見直し)	施策上の必要性	低
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(複合化等)	代替の可能性	高

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	売却・移管
	室根山県立自然公園の保護と利用促進等のために一定の寄与が認められる施設であり、今後も、施設機能の維持は必要と考えられる。 一方、有形固定資産減価償却率は87.0%に達しているなど、老朽化が進んでおり、今後、施設を維持するためには、一定の財政負担が避けられない。裨益が限定的であり、県が施設の保有を継続すべき特段の事情が認められないことから、当面は維持補修等を行いつつ、将来的には関係市町村への移管等について検討する余地がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	耐用年数が満了した後に、売却・移管が進められるよう、各種設備を整備する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
		映像設備改修	展示施設改修	外壁工事改修	浄化槽改修	
概算費用(見込)	0 百万円	15 百万円	3 百万円	9 百万円	1 百万円	28 百万円
国庫						0 百万円
県債		11 百万円	2 百万円	7 百万円		20 百万円
一般財源		4 百万円	1 百万円	2 百万円	1 百万円	8 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。

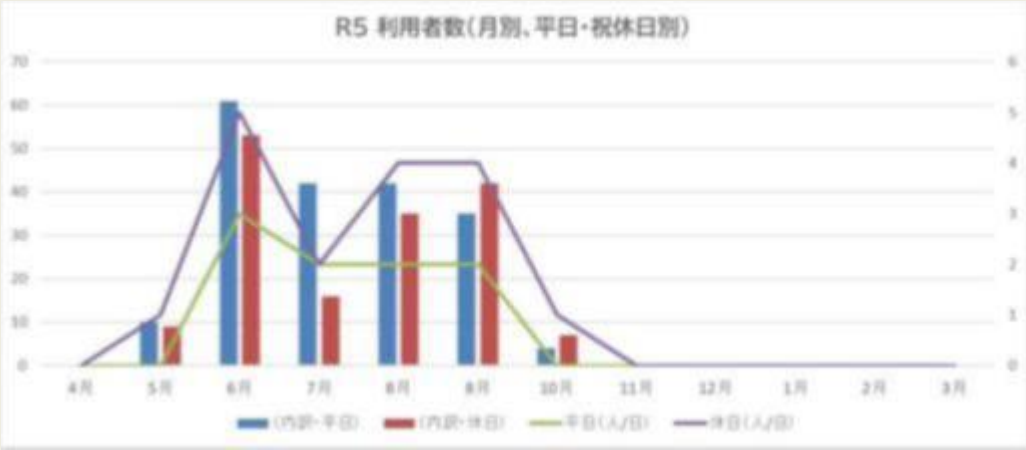
1 施設概要

施設名称		早池峰総合休憩所		策定年月	R3.3	最終更新	R7.12
所在地		岩手県花巻市大迫町内川目25		施設類型	県民利用施設	財産区分	行政財産
所管課		環境生活企画室		運営形態	委託	防災施設等指定	非該当
都市計画区域		都市計画区域外		防火地域	指定なし	用途地域	指定なし
敷地面積		714.00 ㎡		建築面積	239.83 ㎡	延床面積	250.97 ㎡
竣工年度 (建築年月)		1984年9月		経過年数 (R7.4.1現在)	40 年	施設内棟数	1 棟
設置根拠		有	自然公園法(努力義務)、自然公園法施行令(努力義務)			年間目標利用者数	371 人
設置目的		昭和57年6月10日に県立自然公園から国定公園に昇格したことに伴い、北上山地の最高峰で高山植物の宝庫である早池峰山の優れた自然保護の強化と登山客の適正な利用のため。					
施設の概況		早池峰国定公園内に生息する動植物の紹介や普及啓発、登山客の休憩施設として利用されていること。 ・ハイビジョン映像コーナー ・展示施設:「心を彩る花々コーナー」、「早池峰の素顔コーナー」、ジオラマ ・管理員常駐 ・休憩施設					
類似施設		公共	有	県内のビジターセンター等		民間	無
未利用設備		無	大規模改修			無	
使用許可等の有無							
社会目的適合性 ※県民利用施設等のみ	①施設の設置目的	昭和57年6月10日に県立自然公園から国定公園に昇格したことに伴い、北上山地の最高峰で高山植物の宝庫である早池峰山の優れた自然保護の強化と登山客の適正な利用に向けて、昭和59年に整備されたもの。					
	②建物が提供する機能	・「心を彩る花々コーナー」では、早池峰山固有の植物や希少な高山植物を時期ごとに展示している。 ・「早池峰の素顔コーナー」では、早池峰山やその周辺地域と信仰との深いゆかりについて説明している。 ・高山植物の盗採防止や携帯トイレの利用促進に向けたポスター掲示や早池峰マナーガイドの配架をはじめ、登山の基本的なマナー等の普及啓発を行っている。 ・早池峰山周辺の山々を立体的に展示したジオラマがあり、早池峰山の優れた自然景観を忠実に再現している。 ・自然保護管理員が常駐しており、マナーの普及啓発や簡易的な指導を実施している。(アクセス道路である県道の冬期閉鎖期間を除く) ・ハイビジョン映像コーナーでは、早池峰山の成り立ちや早池峰山周辺地域に生息している動植物等に関する説明が行われている。 ・当休憩所の玄関には、閉館時間でも利用できる休憩スペースがあり、登山客が気軽に過ごすことができる施設となっている。					
	③設置目的の適合性	現状においても設置目的に即した利用がなされているが、整備から40年が経過し、法定耐用年数を大きく超えており、今後休憩所内の設備の老朽化が見込まれることから、来所者が安全に利用できるよう修繕を実施していく必要がある。 ・早池峰山の固有植物の盗採が頻発していることから、登山客の盗採防止に向けて、引き続き注意喚起を行っていく必要がある。 ・新型コロナウイルスの拡大により、令和2年度以降、利用者が大きく減少したことから、利用者の継続的な確保や早池峰山への登山客に対して適切な情報発信ができるよう、展示物の更新等を検討していく必要がある。					
	④施策上の必要性	政策推進プランにおける指標(VIII-②)記載の「自然公園の利用者数」に該当すること。					
	⑤建物の必要性	登山者等に対し、実物標本などで貴重な早池峰山の自然解説を行っているほか、登山者の休憩所として利用されている。複数ある早池峰山の登山口において、これらの機能を有する施設は当該施設のみである。					
	⑥類似施設への代替可能性	・発信方法 早池峰山登山口周辺で唯一、映像装置やパネルを用いた普及啓発を行っている。 ・発信内容 早池峰山に焦点を当てた固有植物や希少な高山植物の情報発信を行っている。 ・立地 他の休憩所等に比べて登山口に比較的近く、登山前の準備や集合場所として利用されている。 上記のことから、類似施設による代替は困難であること。					
	⑦今後の方向性	③と同様					
	⑧利用者推移の分析	新型コロナウイルス感染症の拡大期間中、同休憩所への出入り・滞在を禁止していたため、令和2～3年度において大きく減少したものの、また、その余波が残っているからか令和5年度においても、利用者数がまだ回復していないものと考えられる。					
	⑨設置目的の達成に向けたKGI	・目標値 371人(直近3か年の平均利用者数を算定) ・令和5年度において、達成率は96%となっているから、令和6年度以降情報発信拠点としてより多くの方に利用してもらえるよう展示物の更新等を検討していく必要がある。					
主要棟	名称	早池峰総合休憩所			現況写真		
	構造	W造		種目			事務所建
	階数	地上	1階建	地下			なし
	建築面積	239.83 ㎡		延床面積			250.97 ㎡
	建築年月日	S59.9		法定耐用年数			15 年
	耐震診断	不要		耐震改修			不要
	その他特記事項						

2 利用状況

R5 利用 状況	開館日数	全日(5月～10月)			開館時間		8:30～17:00		年間利用者数		356 人		
	月別・利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		0	19	114	58	77	77	11	0	0	0	0	0
	(内訳・平日)	0	10	61	42	42	35	4	0	0	0	0	0
	(内訳・休日)	0	9	53	16	35	42	7	0	0	0	0	0
	利用者数内訳・団体	-					利用者数内訳・個人		356 人				
	利用者数の推移 (直近5年間)	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		増減率 (R5/過去5年平均)	
		988人		888人		553人		258人		499人		▲ 44.1%	
施設利用対象者 マクロデータ ※花巻市観光入込客数	開設当時【A】 (S42年10月時点)		2,535,000人		現 在【B】 (R6年4月時点)		1,284,092人		増減率 (マクロデータ)		▲ 49.3%		

令和5年度
施設利用者推移



3 維持・管理費の状況(改修、大規模修繕などに含まれるものは除く)

(単位:千円)

行政コスト計算書		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			構成比		構成比		構成比
経常費用	経常費用	1,836	100.0%	1,853	100.0%	2,003	100.0%
	人件費	1,062	57.8%	1,062	57.3%	1,062	53.0%
	物件費等	772	42.0%	789	42.6%	719	35.9%
	維持修繕費	0	0.0%	0	0.0%	220	11.0%
	減価償却費	2	0.1%	2	0.1%	2	0.1%
	支払利息	0	0.0%	0	0.0%		0.0%
	臨時損失	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	災害復旧事業費	0	0.0%	0	0.0%		0.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%		0.0%
支出合計		1,836	100.0%	1,853	100.0%	2,003	100.0%
経常収益(直接的収入)	経常収益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	使用料・手数料	0	-	0	-		-
	その他	0	-	0	-		-
	臨時利益(直接的収入)	0	-	0	-	0	-
	資産売却益	0	-	0	-		-
	その他	0	-	0	-		-
	補助金等(間接的収入)	0	-	0	-	0	-
	国庫補助金	0	-	0	-		-
	その他	0	-	0	-		-
収入合計		0	-	0	-	0	-
年間コスト		▲ 1,836		▲ 1,853		▲ 2,003	

年間利用者数	258 人	499 人	356 人
延床面積当たりコスト	7,316 円/㎡	7,383 円/㎡	7,981 円/㎡
利用者1人当たりコスト	7,116 円/人	3,713 円/人	5,626 円/人
(参考)県民1人当たりコスト	2 円/人	2 円/人	2 円/人
有形固定資産減価償却率	99.8 %	99.8 %	99.8 %

(参考)岩手県の人口

(単位:人)

R3	R4	R5
1,196,277	1,180,512	1,163,024

4 施設内建物の概要

	① 建 築		② 電気設備		③ 機械設備	
主な建築・設備	屋根仕上:金属		発電機あり(屋内型低圧ディーゼル)		加圧送水方式	
	外壁仕上:木製				排水利用(沢から取水)	
	床仕上:縁甲板張り				浄化槽あり	
	壁仕上:木製					
	天井仕上:木製					
劣化度調査	経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。		経年劣化による機能の老朽化が進んでいる。	
定期点検	防鹿柵の設置・撤去や盗採パトロールなどの定例的な点検の際に合わせて休憩所を点検している。		防鹿柵の設置・撤去や盗採パトロールなどの定例的な点検の際に合わせて休憩所を点検している。		防鹿柵の設置・撤去や盗採パトロールなどの定例的な点検の際に合わせて休憩所を点検している。	
改修・大規模修繕等 工事履歴 【百万円】						
直近5年改修・大規模修繕費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
国庫						0百万円
県債						0百万円
一般財源						0百万円
その他						0百万円
計	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円

5 施設評価

1次評価(定量評価)	評価・分析結果	2次評価(定性評価)	評価結果
ソフト(利用状況×経費効率)	廃止(抜本的見直し)	施策上の必要性	低
ソフト×ハード(建物性能)	改善・見直し(複合化等)	代替の可能性	低

6 今後の方向性(たたき台)

施設の方向性	機能の方向性	現状維持	建物の方向性	売却・移管
	早池峰山登山の受入れ等に一定の寄与をしてきた施設とは認められるが、河原坊コースの閉鎖により当該施設の利用者は大幅に減少している状況。 有形固定資産減価償却率は99.8%に達し、老朽化が著しく、今後、施設を維持するためには、一定の財政負担が避けられない。裨益が限定的であり、県が施設の保有を継続すべき特段の事情が認められないことから、当面は維持補修等を行いつつ、将来的には関係市町村への移管等について検討する余地がある。			

7 長寿命化等対策の方向性等

長寿命化等対策の方向性	耐用年数が満了した後に、売却・移管が進められるよう、各種設備を整備する。					
主な維持修繕・改修の内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	備考/合計
	屋根改修		出入口ドア・屋根材改修設計	出入口ドア・屋根材改修設計改修	照明設備 トイレ設備修繕	
概算費用(見込)	20 百万円	0 百万円	11 百万円	18 百万円	3 百万円	52 百万円
国庫	9 百万円		5 百万円	8 百万円	1 百万円	23 百万円
県債	9 百万円		4 百万円	7 百万円	1 百万円	21 百万円
一般財源	2 百万円		2 百万円	3 百万円	1 百万円	8 百万円
その他						0 百万円

※「主な維持修繕・改修の内容」は現在の機能を維持すると仮定した場合の見込みであり、改修等の時期・内容については変更の可能性のあるもの。